

第31回 善仁会研究報告会

去る11月15日(日)、横浜市教育会館にて第31回善仁会研究報告会が行なわれました。東京医科大学八王子医療センター腎臓内科 吉田雅治教授による「慢性腎臓病(CKD)の包括的診療の実践―八王子方式を例として―」と題された特別講演は慢性腎臓病(CKD)対策として、腎臓病教室による食事指導～集約的治療～精神的サポートのサイクルを繰り返すことが大切というお話でした。

小児腎疾患総合管理研究所の酒井糾先生による「現場医療に求められる共感力・リーダーシップ」と題された教育講演は現場医療に必要とされるサービス・イノベーションは多様な人と人をつなげる共感力、リーダーシップがポイントというお話でした。今年の一般演題数は23、試験的導入の分析、インシデント対策、災害対策、検査データ分析などを中心とした発表となりました。

特別講演

東京医科大学八王子医療センター
腎臓内科 吉田雅治 教授



教育講演

小児腎疾患総合管理研究所
酒井 糾 先生



医療安全は知識、技術、情報、知恵のチームワーク力が試されているということですね。(山本)

横浜第一病院バスキュラーアクセスセンター

バスキュラーアクセスに専門的かつ総合的に対応するセンターとして、最新の医療技術、設備のもと、迅速な診断、長期に安定したバスキュラーアクセスの作製、維持に取り組んでいます。

センター長 笹川 成

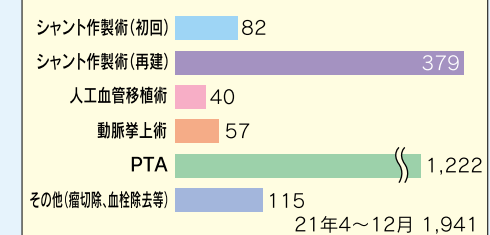


診療時間 午前9:00～12:00

休診日 日曜・祝日・年末年始

予約制 バスキュラーアクセス外来の診療は予約制となっておりますのでご来院前にお電話でお問い合わせください。(緊急を要する場合は別途ご相談ください。)

●横浜第一病院バスキュラーアクセス関連手術実績



専用電話：045-453-6709 FAX：045-441-1565

ふれあい

2010.1.15
No.172

発行：ふれあい編集委員会 〒220-0011 横浜市西区高島2-5-12 善仁会 TEL: 045(453)6772 ホームページアドレス<http://www.zenjinkai.or.jp/>



医療安全への取り組み



年頭にあたって



皆様、明けましておめでとうございます。

世界を深刻な経済危機に陥れたリーマンショックから、1年以上が経過しました。しかし、日本経済の基本的条件は未だ改善していません。景気の先行指標である設備投資の機械受注は減少を続け、失業率は過去最悪水準の5%前後で推移しています。医療を取り巻く環境も激変しており、政府の財政事情が厳しくなる中、医療費の財源もこれまで以上に厳しくなることが予想されます。

また、昨春先にはメキシコで新型(豚)インフルエンザのヒト感染が確認され、同6月には世界保健機関(WHO)が、フェーズ6(世界的大流行:パンデミック)を宣言しました。この新型インフルエンザは、感染のピークを越えたと言われるものの、未だ収束の目処がたっておりません。この流行が始まった当時の安全および危機管理につき、現時点で冷静に振り返ってみると、我々の日頃の準備は不十分であったと猛省せざるを得ません。具体的には、流行の初期段階に、医療用マスクや手指消毒薬が一時入手不能となるなどの混乱が起きてしまいました。

人間は、「自分だけは大丈夫」、「私にそんな悪いことが起こるわけではない」と考える傾向があります。日々の業務でも「自分は大丈夫」と思わずに、常に当事者意識を持って安全・危機管理に取り組むのが、我々医療従事者の責務であります。医療事故と院内感染の防止、医療機器および医薬品の適切な管理を、現場において進めていくことにより、医療安全が実現します。善仁会グループのスタッフ全員が、常に患者さまの安全を最優先と位置づけ、決められたルールを守ることにより「安心と快適」を提供できるよう、日々努力していく所存でございます。

関係各位におかれましては、本年が平和な一年でありますよう祈念いたしますと同時に、一層のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



善仁会グループ
代表理事長 渡邊 光康

特集

医療安全への取り組み

～より安全な医療の実施を目指して～

善仁会本部 医療安全推進部
部長 本間 崇



善仁会グループでは、「患者さま中心の医療」の理念のもとに安全な医療を受けて頂けるように、各種委員会を組織し検討してまいりました。安全な医療を提供するためには、職員一人ひとりが患者さまの安全を守る意識を持つことは不可欠ですが、近年の医療技術向上と医療機器の高度化・複雑化・高速化等を背景に、職員個人の努力のみに依存した医療安全管理は困難になってきています。

今後は当グループとして様々な問題に対し、組織的な質管理の一環として取り組むべきものと考えております。そこで、更に問題点を集約し迅速且つ総合的に対応することを目的に、医療安全を総合的に推進する部署として医療安全推進部が設立されました。質の高い安全な医療を提供するためには、グループにおける全ての業務は患者さまのみならず職員にとっても安全に行われなければなりません。その計画・実施・評価・改善の一連の過程において継続的な見直しを行い、医療現場の状況の変化に適切かつ迅速に対応し実施することを目指しております。

医療において問題が発生する事項としては、

感染、医薬品、医療機器等があります。感染においては、5月頃より発生しております新型インフルエンザに代表されますように、施設内での感染拡大をいかに防止するかなどの対策を検討する「感染予防対策合同委員会」を設置致しました。医薬品においては、医薬品に関わる事故の防止及び適切な管理を行うため必要な対応をはかることを目的として「医薬品安全管理ワーキンググループ」を設置致しました。また、医療機器においては、安全な医療機器を患者さまに提供するために、保守点検を実施し、操作の統一化を行うことを目的として「医療機器安全管理ワーキンググループ」を設置致しました。

これら委員会での検討事項を、職員全体で共有するために速やかに職員に周知するとともに、さらに医療安全管理に関する職員の教育や啓発に努め、患者さまに選ばれる施設を目指してまいります。



感染症から患者さまをお守りするための 私たちの取り組み



福生駅前クリニック院長
感染予防対策合同委員会委員長
阪井田 仁士



私たち善仁会グループでは、患者さまに安全で質の高い医療をご提供するために、さまざまなリスクマネジメントに対して組織的に取り組んでいます。その中心となる組織が医療安全統括推進委員会であり、その傘下の柱の1つに、感染予防対策合同委員会という組織があります。ここでは、いかに患者さまを種々の感染症からお守りするかということが議論されます。

例えば、院内で感染症が発生した場合、病原体の同定や感染ルートの分析を行い、感染原因の排除、更にこれ以上感染が拡大するのを防ぐための対策を立て実行するという機能を持っています。

また、実際に院内で感染症が発生した場合、

職員が速やかに適切に対応できるように積極的に教育指導を行っています。

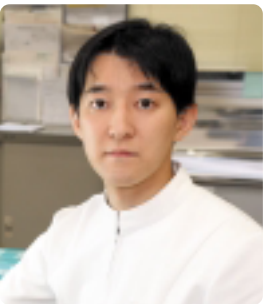
直近では、主として新型インフルエンザウイルス感染症対策が委員会の中心となる活動となっています。具体的対策として、出来るだけ早期に内服することによりインフルエンザの症状を改善することができるお薬、タミフルを確保し、透析患者さま全員に、行き渡るように準備をさせて頂きました。

私たちは、善仁会グループ内の感染予防対策を確立徹底することで、患者さまが安心して透析をお受け頂けるよう日々議論を重ねております。これからも、この施設で良かった、と言って頂けるように努力して参ります。

医療安全推進における医師の役割



横浜第一病院
診療部 **若井 陽希**



医療は安全に提供されてこそ患者さんのためになるものです。我々医師は事故防止のために全力を尽くさなくてはなりません。

医学・医療の歴史は、人類が果敢にも自然の摂理に戦いを挑み、リスクや危険を乗り越えながら、自らの幸福と種の繁栄を勝ち取るために発展してきました。新しい技術や安全な治療が確立されるまでには多くの困難と努力があり、我々はその経験の上に現在の恩恵を受けていることを忘れてならないと思います。

そして、医療が本来持つ危険性について、我々医療者は常に意識を新たにする必要があります。その上で、今求められている重要な能力があり

ます。それは、患者さんの要望に近づきながら、発生するかもしれないリスクを正確に予見し、医療現場を調整する能力です。これは経験豊富な臨床医のみが持ち得る能力です。同時に、安全な医療は我々医療者だけではなく、患者さんと協力しあって達成するものだと思います。

医療への不安を取り除きつつ、患者さんのリスクを最小化し、厳しい状況の中でも果敢に新たな医療に取り組む。そんなチーム医療のリーダーであり続けるために、善仁会グループの医師は日々自己研鑽に努めています。

看護部の医療安全への取り組み



二俣川第一クリニック
看護部 課長 **小笠原 明美**



患者さまに安全な医療を提供するのは、看護サービスの基本となるものです。

現在、安全な透析治療を提供するために、組織的に行なっていることは、主に大きく3つあります。ひとつめとして、安全な透析手技、技術の提供のためのマニュアル遵守の徹底です。定期的に自施設以外の第3者から、手技や治療環境、接客サービスを評価してもらい、指摘された部分を、施設や個々が改善するように職場で再教育・指導改善を行なっています。

次に委員会における安全活動です。毎月、インシデントの事例を集計し原因や要因を分析検討して、同じインシデントを繰り返さないための対策を議論し、安全な業務マニュアルや手技の改良、改善を推進しています。もうひ

つつは安全確認作業の徹底です。これはヒューマンエラーの防止のため、目でみて、指で指し、声を出して確認する「指差し呼称」の実行です。また一人の確認だけでなく、2人の目で確認することを行い、注射薬の間違いや透析条件の設定ミス防止に努めています。

私たち看護師は、患者さまが安心して透析治療を受けられ仕事や家事、趣味や旅行などの日常生活のひろがりや快適な生活を送られている姿を拝見すると、心から仕事の喜びややりがいを感じます。これからは患者さまの笑顔をエネルギーに安全な医療の提供に努めたいと思います。

医療安全の取り組み 臨床工学技士の立場から



臨床工学本部 次長 **栗原 正己**



安全で安心な医療を提供することは、私たち臨床工学技士の重要な仕事です。朝礼時に、その日に自分が重点的に行う医療安全の目標を発表して、安全文化の定着を目指しています。透析中は事故が起きないように、チェックリストを確認しながら手技の一つ一つに「指差し声だし確認」を実施しています。

また、スタッフ全員がマニュアルに沿った統一した手技を行うことができるように、教育・指導も行っています。同じマニュアルを使用することで、どこの施設でも同じ手技で透析を行うことが可能となり、事故防止に役立ちます。

また、機器の保守点検も安全に機器を使用するための重要な仕事です。臨床工学技士は、透析室での司令塔として透析室全体を見渡し、周りのスタッフの動きを把握して、ミスや事故が起こりそうなことを事前に察知できるように心掛けています。

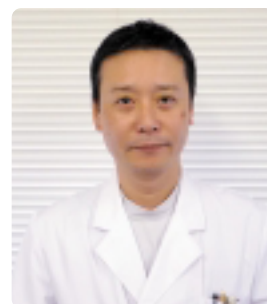
さらに危険な手技、事故などの情報を共有することで再発を防ぐ対策を立て、勉強会を開催しています。臨床工学技士は、様々な情報を活用して安全で安心な医療提供に向けて、これからも行動します。

医療機器安全管理 ワーキンググループの活動



医療機器安全管理ワーキンググループ委員長
本部教育研修センター 係長(臨床工学技士)

高橋 賢治



現在の医療では、身体的な治療だけではなく、患者さまのQOL向上のために心理・精神・社会的なケアを提供することが必要となっております。また、近年の医療の進歩とともに専門分化が進み、各職種間による連携したチーム医療が求められています。

医療機器の技術進歩・多様化している臨床現場において、使用する様々な機器の知識・技術などの専門性が必要とされています。法規でも「医療機器の安全使用と保守管理は、医療機関自らの責任業務である」と定められ

ており、善仁会グループでも医療機器安全管理ワーキンググループが発足いたしました。

医療機器安全管理ワーキンググループでは、善仁会グループ各施設に配置されている医療機器安全管理責任者と連携を図り、患者さまへ安全な医療を提供するため、現場において大きな役割を果たしている医療機器の整備・使用・管理を徹底し、より安全に使用するための医療安全研修会等の活動を行ってまいります。

医療安全への取り組み



医療安全統括推進委員会 委員

事務部 部長 藤岡 健



質の向上を大前提とし、医療安全の確立に向けて組織横断的に取り組む中、患者さまの安心と快適に向け、チーム医療に携わる事務として如何に関わり、何をしなければならないか、と繰り返し自問自答の日々でございます。常に改善を図り、大切な生命を托しておられる患者さまの声に真摯に耳を傾け、ご本人やご家族から信頼される施設であるべき、と考えます。

アンケート等でのご指摘に対し速やかに行動致します。ご来院・受診時には、お名前を正しく把握し、常に正確にカルテが引き出せる管理体制を整えます。乗降時を含め事故の無い安全な車両運行管理を行います。出入口等の

バリアフリー化の徹底を図り、待合室を明るく清潔に保持し、分かり易く、見やすい表示方法を心がけます。

また、感染対策や医療事故防止に向けた環境づくりの中、速やかな備品購入や整理・整頓に努め、器具・設備の点検、手洗い場・トイレの清潔維持、車椅子やベッドからの転倒転落防止対策等の安全で快適な環境づくりをいつも心がけます。全てのスタッフの行動が医療安全を十分に意識したものと映るよう、患者さまの安全について、常に敏感でありたいと思っております。

医薬品安全管理ワーキンググループ について



医薬品安全管理ワーキンググループ 委員長

吉祥寺あさひ病院
看護部 次長 三浦 加代子



医薬品安全管理ワーキンググループはメディカル、コ・メディカル各部の代表メンバーで構成されており、医薬品に係わる事故の防止及び適切な管理を行います。医療事故の中でも、医薬品関連のものは多く、患者さまの生命に重篤な危険を及ぼす可能性があります。そこで、各施設の医薬品管理体制を構築し、適正な医薬品管理(購入から使用・破棄まで)を継続して実施できるよう管理・指導していきます。

また、医薬品の安全使用のための研修の実施や業務に関する手順書の策定、手順書に基

づく業務の実施、また、情報の収集や安全使用を目的とした改善策の実施などを役割として、各施設に医薬品安全管理責任者及び副責任者を配置しています。

医薬品安全管理ワーキンググループは善仁会グループ各施設の医薬品安全管理者と連携を図り、各施設で実施されていた対策をより強化させ、医薬品が有効かつ安全に使用されるよう提案し、患者さまに安心して治療を受けていただける様に努めてまいります。

医療安全への取り組み 薬剤部の立場から



医薬品安全管理ワーキンググループ

横浜第一病院 薬剤部 山口 泰江

薬剤部は現在、通常の業務の他に「医療安全委員会」「感染対策委員会」「薬事審議会」「輸血委員会」などの活動に参加し、様々な方向から医療安全に取り組んでいます。

調剤業務につきましては、患者さまに処方されるお薬『内服・外用・注射』を処方箋に基づき、有効・安全に使用されるよう調剤するとともに、お薬の重複や相互作用、禁忌などもチェックしています。又、処方内容に疑問のある時は、医師への問合せを行っています。患者さまの状態により、お薬の一包化を行うなど一人ひとりに細かい配慮をしています。患者さまからのご質問にも対応し、安心・安全に服用していただけるよう努めています。薬剤部は調剤室と医薬品

情報室からなり、適切な薬物療法を通じ、患者さまに安心・安全な医療をご提供するとともに、お薬の有効性・安全性などの最新情報を、医師・看護師などの医療スタッフに迅速かつ的確に提供し、患者さまにとって安心できる適切な医療が行えるよう、薬の専門家として積極的に業務を推進しています。

